

派遣留学生帰国報告書

* 帰国(復学)後の情報を入力してください

記入日	2020/5/2
所属学部・ 研究科・学府	文学部
所属学科・専攻	人文学科 国際言語文化学コース

1. 留学先について

留学先大学名	ライプツィヒ大学										
留学先所属学部等	文献学部										
留学期間	出発日	2019/3/3	入学日	2019/4/1	修了日	2020/2/4	帰国日	2020/2/28			
住居	<input checked="" type="checkbox"/> 大学(紹介)の寮・アパート	<input type="checkbox"/> 民間アパート		その他()							
	通学時間	10~15分						On campus			
	通学方法	徒歩または自転車、トラム									
	居室スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 個室	() 人部屋		その他()						
	共有スペース	<input type="checkbox"/> 完全個室	<input checked="" type="checkbox"/> キッチン	<input checked="" type="checkbox"/> トイレ	<input checked="" type="checkbox"/> バス	<input type="checkbox"/> リビング	その他()				
食事	自炊	30 %	学食	60 %	外食	10 %	その他	() %			
保険	海外旅行保険(名称)	CareConcept (医療保険Care College Confort + 賠償保険Typ M) クレジットカード付帯保険									
	派遣先大学指定の保 険(名称)	特に無し								<input type="checkbox"/> 強制加入	
	その他	上記の保険でビザ申請可。大学提供の保険もあるが、少し高額。									
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)										
	羽田 ⇄ フランクフルト(飛行機) ⇄ ライプツィヒ(電車)										

2. 留学にかかった費用について

総費用	130万 円										
出どころ											
自費	<input checked="" type="checkbox"/>	貯金	10万 円	アルバイト	円	その他	円				
援助	<input checked="" type="checkbox"/>	両親	14万 円	家族・親戚	円	その他	円				
奨学金	<input checked="" type="checkbox"/>	JASSO	96万 円	<input checked="" type="checkbox"/> その他名称(<small>学部学生 留学支援奨学金</small>)		10万 円					
その他		千葉大学助成金	円	その他()		円					

2-1. 財政管理の方法

渡航時	✓	現金	5万 円	その他()	円
留学中		海外送金	キャッシング	その他(閉鎖口座)	

2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	渡航前:海外送金 留学中:口座引き落とし
住居にかかった費用	口座引き落とし
その他	寮の洗濯機はクレジットカードかPaypalで支払い

2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			15万	円
海外旅行保険	ユーロ	468	5万	円
OSSMA			2万	円
査証・在留許可証			1万	円
住居	ユーロ	2,820	34万	円
食費	ユーロ	2,600	31万	円
通学に要する交通費	ユーロ	550	7万	円
教科書、教材費			0	円
その他大学に支払った経費			0	円
光熱費			0	円
その他 (通信費)	ユーロ	120	2万	円
その他 (日用品等)	ユーロ	200	3万	円
その他 (娯楽・旅行費)		国内外合わせて	25万	円
その他 (その他)			5万	円

3. 学業面

履修科目名	種類 ^{ex.正規、聴講}	単位数	単位互換認定申請の有無		
			有		無
1 Aufbaukurs B2 (Sprachpraxis Phonetik)	正規	3	有		無
2 Deutsch für Studierende der Sprachwissenschaften	正規	3	有		無

3 Aufbaukurs C1 (Sprachpraxis Konversation)	正規	3		有		無
4 Aufbaukurs C1 (Sprachpraxis Schreiben)	正規	3		有		無
5 Aufbaukurs C1 (Sprachpraxis Grammatik)	正規	3		有		無
6 Einführung in die Geschichte der neueren deutschsprachigen Literatur	正規	5		有		無
7 Einführung in die Literaturtheorie	正規	4		有		無
8 Modul: Lexikologie	正規	10		有		無
9 Einführung in die ältere deutsche Literatur	聴講	2		有		無
10 Einführung in die Kinder- und Jugendliteratur	聴講	1		有		無
11 Grundlagen der Phonetik in Deutsch als Fremd- und Zweitsprache	聴講	2		有		無
12 Übersetzen und Dolmetschen (Deutsch-Japanisch)	聴講	0		有		無
13 Übersetzen und Dolmetschen (Deutsch-Japanisch)	聴講	2		有		無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

学期が始まる2~3週間前からネットでシラバス閲覧可能。留学生用のオリエンテーションコースや各学科のコーディネーターと相談するなどして決める。大学の授業は基本的にオンラインでの登録ではなく授業を行う教授等にコンタクトを取るなどして履修する。少なくとも文献学部やDeutsch als Fremdsprache学科の授業では初回の授業で留学生用の履修方法や試験方式に関する周知が行われることが多い。Studienkolleg Sachsenが開講しているStudienbegleitender Deutschunterricht(留学生用のドイツ語授業)はオンラインで登録。学期はじめの日に一斉に希望の授業にネットで登録し、初回の授業に出席して確定。定員オーバーの場合はキャンセル待ちができる。必ずしも所属している学部の授業だけしか履修できないのではなく、自分の興味のある分野の授業は基本的にどれでも柔軟に参加できる。

3-2. 授業内容、方法に関して

Vorlesung(講義): 教授や講師が広い講堂で話し、受講者はそれを聴く。課題が出たり、ディスカッションなどのインターアクティブな授業になることもある。学生は授業中も積極的に発言・質問をしていた。授業の資料は基本的に授業の前後にMoodleにアップロードされる。

Seminar(ゼミ): 少人数形式でディスカッションや問題演習が中心。連関した講義に基づく内容。各自が家でやってきた課題をもとに授業が進むため、総じて講義よりも負担が大きい。レポートやプレゼンが成績評価の対象になることが多い。

Tutorium(補習授業): 学科の院制や上級生が先生の代わりとなり、講義やゼミの補習を行ってくれるシステム。単位は与えられないため参加は基本任意。

応募時のドイツ語能力の最低条件はB1レベル(英語で応募する場合はB2)を有していること。会話力までB1レベルである必要はないが、ある程度の知識はないとドイツ語コースを受けさせてもらえない。学期はじめにクラス分けテストがあり、点数に応じてB1~C2のどの授業の受講資格があるかが決められる。

自分は渡航前にゲーテ・インスティテュートのB2レベルを取得していたため渡航後も生活で困ることはなかった。ただ話すことにはまだ慣れていなかったためディスカッション等では置いていかれることが多かった。基本的に会話力はタンデムとドイツ語コース等で鍛えた。リスニング力は授業を受けているうちに少しずつ身につけてくると思う。

3-4. 図書館など学内施設について

学部によって様々なキャンパスを行き来することになるが、お互いそこまで離れているわけではない。文献学部のドイツ語学科は本キャンパス、Deutsch als Fremdsprache学科は中心から徒歩15～20分ほどのところにあるGWZという建物で授業を行うことが多い。

図書館も分散しており、文系学生は本キャンパスとAlbertinaという図書館を利用することが多い。本キャンパスの図書館は24時間営業でクリスマスや年末年始以外は基本的に毎日開館している。東洋学部の図書館では日本語で書かれた文献も閲覧できる。

3-5. その他

日本語学科があり日本留学を目指す学生も毎年一定数いる。そのためタンデム探しに困ることはあまりない。

Academic Labという大学付属の教育機関が年中ワークショップを提供しており、ドイツ語や英語の論文の書き方、プレゼン方法などを教えてもらえる。参加無料で申し込みも簡単、授業の質もかなり高く、留学生にとっては非常に良いシステム。特に英語とドイツ語ではレポートの書き方にかなり差があるため、こういった授業を受けてみることも授業を乗り切る一つの手段だと思う。

4. 生活面

4-1. 住居について

キッチン・バスルーム共同で、5人それぞれ個室が付いたシェアフラット。同居人は自分以外4人全員ドイツ人で、男女比は3:2(寮申し込みの際に同居人の性別等の希望を出すことはできる)。二つのバスルームを男性女性で使い分けていた。キッチンには大小のコンロ1セットが二つ、小さめの冷蔵庫が3つ、シンクは一つしかなくすぐに洗いが溜まってしまうことが難点。電気や水道で困ったことは特にないが、お湯が流れない時が何度かあり、一度シャワーを浴びられない日があった。食器や洗剤類はお互いに借りたりして使っていたが食材はほとんどシェアしなかった。するとしてもみんな律義に一声かけてから使っていた。

建物にはパーティールームや音楽練習室、卓球室、バーもあり毎週何かしらのイベントが催されていた。寮入居者だけのFacebookグループがあり、こうした部屋の鍵のやり取りなどをしていった。

寮は大学本キャンパスまで徒歩15分もかからないほどの所にあり、近くにトラムの停留所やS-Bahnの駅、スーパーやドラッグストアもある好立地。エレベーターがないことだけが唯一の難点。入・退寮時と地下にあるランドリー室に洗濯をしに行く際に何度も階段を往復しなければならなかった。

4-2. 食生活について

メンザ(学食)で食べられるときは基本的にそこで食事を済ませることが多かった。一食2~4ユーロほどでかなりボリュームのある食事が食べられる。週末や休暇期間は自炊が多かった。パスタや簡単な炒め物、インスタント食品などが多かった。アジア・スーパーに行けば少し値は張るが日本食も手に入るため、親子丼やカレー、うどんなども作れる。日本から持ってきた日本食も活用した。電化製品売り場で20ユーロほどの小さな炊飯器を買い、Milchreisを炊いて食べることも多かった。ドイツの食べ物は脂っこい・塩辛いものが多いため、いざという時に日本食が作れる環境があると良い。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

渡航前にヨーロッパで3か月ほど使えるsimカードを買って行った。期限が切れる頃にVodafoneのsimカードに切り替えた。1か月2.5ギガで9.99ユーロ。スーパー等でプリペイドカードを購入しチャージ。ヨーロッパのほとんどの国で利用できるため旅行で重宝した。スマホはシムロック解除後のiPhone。

寮のネット環境は良いが有線しか利用できず、ケーブルをパソコンにつないでデザリングしながら利用していた。無線LANルーターを現地で購入して使う人もいた。大学は無線LAN完備。

4-4. 服装について

夏: 近年、昼間は東京並みに暑くなる日が多いが基本的に朝晩は涼しい。日本と同じように半袖半ズボンで過ごせる(※体感温度は個人差あるので現地人の真似をして風邪をひかないように注意)。
冬: ヒートテック+シャツ+セーター+コートでほぼ毎日行動していた。ニット帽とマフラーはがあると重宝する。氷点下になる日もあるが気候変動のせいか想像ほど寒くならなかった印象。

洗濯は基本週に一回、特に運動を頻繁にしていたわけではないので最低限3~4日分のその季節の服があれば十分だったと思う。PRIMARKという衣料品メーカーで衣服が安く手に入る。

4-5. 健康管理について

体調不良になったことは一度も無かった。とにかく一日三食食べることは意識していた。少しおなかを壊したときは日本食を食べるようにした。風邪など些細な病気で薬を処方されることはほとんどなく、ハーブティーを飲んで体を休める程度。医療用の紅茶がスーパーなどでも売られている。

4-6. 保険、OSSMAの利用について

利用実績無し。

4-7. 課外活動について

WILMAという団体が留学生向けの小旅行をほぼ毎週企画しており、自分も何度か参加した。1人10ユーロほどでザクセン州の街に遊びに行ける。また2泊3日のブラハ旅行やスキー旅行もあった。Studentenwerk主催のイベントではチューターが主にライプツィヒ内でのイベントを催し、そこで留学生同士のコミュニティを作ることできる。

留学後半のセメスターには大学オーケストラに入団して練習に参加し、いくつかのコンサートに出演した。活動は基本的にいつもドイツ語で行われた。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

中心地からトラムで10分ほど東に行ったところに「日本の家」があり、ライプツィヒ在住の日本人の方々が中心となって立ち上げた非営利団体が活動をしている。Facebookでイベントの告知をしており、ご飯を作る会やミニコンサートなど様々なイベントに誰でも参加できる。

また日本学科の友人の行為で、現地の柔術クラブの練習を見学、体験させてもらった。

4-9. 日本から持参してよかったもの

ユニクロのウルトラライトダウン
ヒートテック
トレッキングシューズ
サララップ
にんにくチューブ
日本食
筆記用具
ドイツ語の参考書
日本語で書かれた本(気分転換用)
旅行用ガイドブック
テーブルタップ

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

カイロ、傘、ベッドのシーツ、大量のレトルト食品やお土産

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

日本にいるときほど遠慮する必要がない、ということ。日本では相手に迷惑がかかりそうなことは避けるか申し訳なさそうに頼むことが多いが、ドイツではその際の遠慮はあまり気にされない。迷惑はかけるもの、という感覚があるような気がする。自分は他人に迷惑をかけるし、そのかわりに他人の迷惑も受け入れる。そうやって社会が回っているのだから、「まあいっか」という寛容な心を持つことが、この国で人と関わる上で大事になってくると思う。

それから、ビールで乾杯する時に相手としっかり目を合わせることも非常に大事。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行

国内:

【ニュルンベルク、レーゲンスブルク】2019年8月(2泊3日)、約3万

【ミュンヘン、フュッセン】2019年9月(2泊3日)、約4万

【ハルトツ地方(ターレ、クヴェトリンブルク、ゴスラー、ヴェルニゲローデ)】2019年12月(1泊2日)、約2万

国外:

【プラハ】2019年6月(2泊3日)、約2万円

【アムステルダム、ドイツ(ケルン、デュッセルドルフ)】2019年8月(4泊6日)、約5万

【ベルリン、インスブルック、ニュルンベルク、ドレスデン(両親と旅行)】2020年12月(5泊6日)、不明

【ロンドン、パリ、ルクセンブルク、シュトゥットガルト】2020年2月(7泊8日)、約8万

その他 * 気分転換やストレス発散法など。

ライプツィヒには広い公園がたくさんあり、勉強で疲れた時はそこで散歩や読書をするなどして気分転換をした。個人的に本が好きなので本屋や古本屋にふらっと立ち寄りすることも多かった。休日にはザクセンチケットを使って日帰り旅行をしたり、ゲヴァントハウスやベルリンフィルなどのコンサート会場に出向いて本場の音楽を味わったりした。

自転車用の道路がよく整備されているため、サイクリングを楽しむ人も多い。自分の自転車がなくても、nextbikeというアプリで街中にある専用の自転車をレンタルできる。海は無いが、街のはずれにある湖まで行ってそこでサイクリングを楽しむのも良い。

またライプツィヒ大学の日本学科の学生が中心となって運営しているJAALという団体が、たまにそのシーズンにあったイベント(スケートなど)を催してくれる。そういうところに積極的に参加しちょっとドイツ語から離れて気軽に日本語で会話したりすると良い気分転換になった。

5. その他

5-1. 留学先大学について

非常に様々な国から留学生が集まっており、国際色豊かな大学。全ての学部でも言えるのかどうかはわからないが、留学生が特に多く集まる文献学部は留学生に対する配慮がしっかりなされていて、あまり不安を持つことなく留学生活を送れた。ドイツ人学生も様々な地域からライプツヒで勉強しに来ており、Friday for Futureに関連したストライキが大学全体で行われたりするなど、学生運動が非常に盛ん。ドイツの歴史的にも重要な街ということもあり、社会問題に関心を持つきっかけを与えてくれた。大学だけでなくライプツヒという街そのものにも非常に多くの魅力がある。この街で勉強したゲーテに始まり音楽の父バッハやRBライプツヒなど多様な文化の歴史がある。モダンな雰囲気の中に古い街並みも残されており、一方では旧東ドイツの面影があるけれど西ドイツに引けを取らない発展も遂げている。様々な意味で多様な街であり、1年暮らしていても知らないことがまだ山ほど残るくらい、飽きの来ない街だった。

交通の便も非常に良く、首都ベルリンまで特急で1時間、隣国チェコのプラハにも日帰り旅行ができる。規模は小さいが空港がS-Bahnで15分ほどの所にあり、少し遠くに旅行に出かけたいときも楽。物価もドイツの他の都市に比べれば非常に安いので、その点ではあまり経済的に困ることなく有意義な生活が送れる。

5-2. 留学希望者へのアドバイス

非英語圏での留学はハードルが高いように思われるかもしれないが、ドイツ語話者で英語が堪能な人は多く、実際ドイツでは英語のみで留学しに来ている人も一定数いる。むしろ英語中心の留学でドイツに来て、それと並行してドイツ語という別の言語もしっかり学べるという点が、ドイツ留学の大きなメリットだと思う。

ドイツはほかのどの国よりも際立って移民・難民の受け入れを進めており、外国人に対して寛容な人も多い印象。学費はかからず学生もみんな勉強熱心(大学なのだからそれが当たり前なのだが)なので、勉強する環境としては非常に良いと思う。ライプツヒなら生活費等あまり高額ではない上、芸術やスポーツも身近に体験できる。

5-3. 留学を終えて

自分は大学4年の春から1年間留学しました。留学中に就職活動や卒業論文を並行して行うのは難しいと思い、帰国後は一年留年して卒業する予定です。もともと交換留学を望んでいたわけではなく、学部での研究をするうちにドイツへの興味が増し留学を決めたため留学の時期がこのように遅くなってしまったわけですが、在学期間を延長してでも行く価値のある留学だったと思います。

派遣留学は千葉大生の身分のまま期限付きで留学できる制度です。留学先で正規学生として大学で勉強している人、Master課程で研究している人、ワーホリビザで滞在している人など様々な目的を持った人と知り合いました。留学中にしっかりとしたバックアップがあり、プログラム終了後も帰属する場所が残っているという点で、自分は非常に恵まれた立場で留学できているんだと何度も思いました。

留学が終わって色々振り返っていますが、実は今後の進路について非常に悩んでいます。留学をすれば何か自分のやりたいことや将来の理想が見えてくるだろうと思っていましたが、逆でした。それまでになんとなく抱いていた将来の理想が、留学を終えてそれに対するモチベーションが少し下がってしまったのです。かといって留学がそんなに実り少ないものだったのかと言われると、そうではありません。むしろこんなに充実した留学ができるものかと思っていたくらいです。毎日が新しい発見の連続で、日々スリルある生活が送れていました。将来の展望がかき乱されてしまったのも、留学で様々なことを体験したからなのかもしれません。異国の地で慣れない事を体験したからこそ、色々な可能性を想像できるようになったのでしょう。ドイツでは既成概念やステレオタイプに影響されず、自分の生きたいように生きている人が多いと感じました。こうすることが望まれる、といった息苦しさあまり感じられず、生き方に正解も不正解も無いんだということより強く実感できた留学でした。

個人的な考えですが、留学で一番大切なのは好奇心ではないかと思っています。その国や文化、人々の生活様式をもっと知りたい、という気持ちが留学中の行動の原動力になります。なぜ留学をするのか、目標を明確にするべきだとよく言われますが、多くの人が未経験の留学に明確な目標を定めること自体がなかなか難しいことで(自分も非常に悩みました)、そもそもそんな明確な目標が定められていて、ただそれを遂行するだけでは留学の楽しさが半減してしまうのではないかとさえ思ってしまう。物事が計画通り運ばないことが留学の醍醐味でもあるので目標が達成できなくてもまた切り替えて挑戦する心意気が大事です。そのチャレンジ精神を保っていられるためには自然な好奇心をもっていることが必要になってきます。国や文化に対する興味があれば、たとえ何かに失敗してもその環境に身を置いている感覚そのものが原動力となり、またなにかやってみたい、という気持ちが生まれてきます。留学することそのものにも意味があるので、目的意識にとらわれずとにかくその国や文化をとことん好きになることが、留学の大前提としてあるといいのではと考えています。